



イイケン先生の『恐縮ですが…一言コラム』

第 621 回 万感、胸に迫る別れであった

2015.3.22

冒頭からお詫びする。今回は単なるつれづれ日記になってしまった。

12 年間乗った愛車を手放すことにした。

旧タイプの🚗クラウン・アスリート、故障した訳ではないので、なんとなく切ない思いは否めない。今は当たり前になったボタン式のセルモーター、電動格納式のドアミラー等、12 年前としたら、かなり斬新で、スポーティなスタイリングと共に話題となっていた。

スポーツタイプとは名ばかりで、すでにツインターボ仕様は無くなっていた。

「先生若いなあ、カッコいいスポーツカーで…」と言いながら乗り込んできた、あの辣腕弁護士。民事再生法の施行直後、このアスリートで、東京と福島を何度となく行き来した。結構タフな車に驚いた、あの先生は他界され、もういない。

夜中に熊谷を出発、朝靄(もや)かかる秋田・鳥海山へ。名だたるブランドのジーパンを、実は、秋田で作っているこの会社。そのクライアントの決算のまとめに行ったのも、このアスリート。あの時の、底抜けに人のいい社長は、数年前に亡くなった。

「ウインターがサイドミラーになっている、すげえー、すげえ」とはしゃいでいた彼、私の担当職員だった商工会議所のスタッフも、もう、とうの昔に辞めている。アスリートがちょっと、自慢顔に見えた瞬間だった。

もちろん大震災前、釜石の海岸に面したホテルへ経営改善指導に 3 年間、通った。東北自動車道で 10m 先も見えないほどの、大嵐に遭遇、必死の思いで帰還したのも、アスリートががんばってくれたおかげだった。あのホテルは津波に流され、崩壊した。

親しい友人のお父様の葬儀へ、愛知県を日帰りした。東名高速を 160km で平気で駆け抜けたのも、“ナイス ガイ (nice guy)”アスリート。緊張の連続運転、翌日全身筋肉痛で、ひどかった。

おふくろが怪我で入院との知らせ、急ぎ病院へ向かう途中で追突された。おふくろの痛みを共有してくれたアスリート。

12 年間の時の流れが、たくさんの思い出として、アスリートには詰まっている。そして、いつしか思い出は消え去り、また新たな記憶と記録が積み重なっていく。まだまだ頑丈そうなアスリートだから、きっとこれから、第二の人生(?)を歩むのだろう。でも、このアスリートとは、もう二度と「出会い」はない。お互いの未来に向けて、過去を引きずらず、前向きに別れよう… 去る際に、そんな言葉を投げ掛けてきたアスリート、万感、胸に迫る別れであった。